



■みなさんと一緒に環境  
や社会の問題を考え、紙  
面を作っていきます。

# 東風

No.7

●発行日

2003年8月1日

●発行所

小倉東総合法律事務所

●編集者

荒牧啓一

●連絡先

〒802-0062 北九州市小倉北区

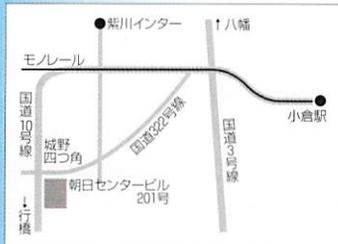
片野新町2丁目12番21号

朝日センタービル2階

TEL093(932)5575

FAX093(932)5600

e-mail:ponpoko@lime.ocn.ne.jp



福岡県弁護士会の副会長(日本弁護士連合会理事も兼任)の仕事も今年の3月末で無事に終わることができました。司法制度が大きく変わろうとする中で、どれだけ役に立てたかはわかりませんが、私自身にとっては貴重な経験をさせてもらった1年間でした。これからも国民にとって分かりやすい、使いやすい司法制度に少しでも近づけるよう微力ながら努力しようと思います。

役員をしてありがたい副産物もありました。我那覇東子弁護士が事務所に来てくれたことです。2人で協力して、これまで以上のリーガルサービスの充実に努力していきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

\* \* \* \* \*

21世紀は始まったばかりですが、既にアフガンの戦争、イラク戦争と2つの戦争を経験しました。

国連や世界の反戦世論を無視して、

米英がはじめたイラク戦争は、ブッシュ大統領の「戦闘終結宣言」後も、唯一の大義名分の「大量破壊兵器」は未だに発見されておりません。

そしてフセイン大統領も行方が知れず、米英軍への抵抗は各地で続いており、現在も、米英軍にも多数の負傷者が出ています。

そんな中、イラク派兵法(イラク特措法)が成立しました。このようなイラクに自衛隊が行けばどうなるか、誰でも予想がつくのではないのでしょうか。小泉首相は、日本人の血を流せというのでしょうか。

米英軍への支援活動は戦闘行為です。憲法9条違反です。たとえイラク派兵法が成立しても、実際には一人の自衛隊員も派兵させないことが必要です。日本が再び戦争に巻き込まれることのないように、イラク戦争に反対した国内内外の多くの人々に依拠して、平和への努力を続けていきましょう。

## 市民の挑戦



「本当に戦争は二度とおこしてはいけない、と強く思った。なぜかという、戦争は人と人が傷つくだけでなく、人と人を引き離すということがあるからだ。

今からの時代、戦争をおこすもおこさないも、今の僕たちにかかっているということ、そして二度とあんな悲惨なことを起こしてはならないと僕は思った」(志徳中学3年)。

北九州市で、小中学校や若い親を対象に、自らの「中国残留日本人孤児の姉」としての戦争体験を語り継ぐ活動を、20年以上にわたり続けている方がいる。小倉南区在住の深谷節子さん、68歳。この間、語り聞かせた子どもの数は、延べ23,400人にのぼるといふ。

戦時中、「大東亜共栄圏」の美名のもと、新天地を求め両親と渡った大連で終戦を迎える。父は終戦の直前に戦地に駆り出され、母と子だけの生活の中に進駐してくるソ連兵の恐怖と激しい飢え。

敗戦の混乱のなか、5人兄弟のうち、幼い弟妹の2人を中国人夫婦に里子に出し、残った家族もばらばらに。数年かかって日本に帰国した。

子どもの命だけは救いたい、中国人に子どもをあずけたものの、とても2人をおいて日本に帰れないと残留を願った母の願いは許されず、数年後に帰国した日本では、「もう、妻と子は生きていないと思わなかった」と、父はすでに他の人と再婚。母は「子どもを残して自分だけが帰国した」という負い目から故郷に住むこともかなわず、北九州の小倉へ。文字通りの一家離散。

しかし、何年経とうと、残してきた弟妹のことを忘れるはずもなく、眺めていた「残留孤児の親探し」の新聞記事に、ついに弟妹の写真をみつけだす。たくさんの方々の支援を受けて、33年ぶりに弟妹の家族そろっての帰国を果たすことになる。

帰国をめぐっては、再会という喜びの一方で、中国の育ての親との別離という、またしても愛する人ととが離れ離れになる現実。母国に戻っても、ことばや生活習慣の壁、国の受け入れ援助制度の心薄さが、帰国した家族・親族に、苦労を永く強いることになる。

## 子ども達の感受性と優しさに 確かな力を実感

当事者である深谷さんの口から、こうした体験を直接聞いた子ども達は、冒頭に代表されるような感想を口々によせている。肉親が離れ離れになる耐えがたい苦しみ、恐怖、飢えの厳しさ、中国の育ての親へよせる想い。

自分の想像を超えたものを思い描いていく中で、「戦争は人の身体だけでなく心まで傷つけ、その傷は決して消えないのだ」「戦争は二度と起こしてはならない、それができるのは自分たちだ」と。そして「深谷さん、ずっとずっと語り部を続けていって下さい」と、感想をつづる子ども達。

寄せられた子ども達の感想に触れると、子どものまっすぐな感受性と、現代日本の子ども達の「戦争」も「争う」ことも知らない「優しさ」が、「ひ弱さ」として



てではなく、真に平和を愛し、世界の人々と手をつなぐ底力をたしかに秘めていると実感させられる。

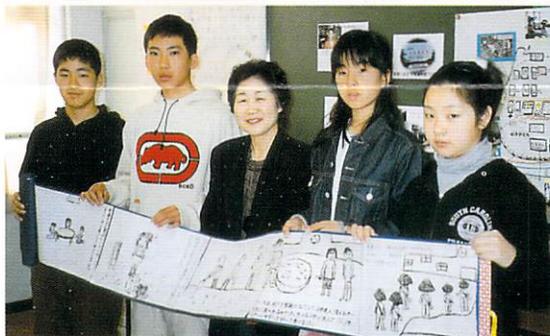
深谷さんの話を聞き、子ども達自らが当時の歴史を詳しく調べ、年表や絵を作成して、加害の歴史も含めた平和と戦争の資料展示を行っている学校もあるという。自分たち自身で歴史を調べ、考える取り組みは子ども達のすばらしい力によるものだが、一方で、平和教育を実践する教師の信念や立場、子ども達が歴史の事実を探る努力の前に立ちほだかる、教育行政の厳しい

管理主義の現実を目の当たりにするとき、教育基本法の改悪を決して許してはならない、とあらためて思う。

娘時代、中国の歌舞団で勉強したこともあるという深谷さん。「語り部」の終わりには、いつも中国の歌を原語で歌って聞かせるという。大陸の自然の雄大さと美しさを謳う澄んだ優しい響きの中に、真の国際理解と友好への切なる願いをこめて。

深谷さんずっと語り部を続けて

戦争をとめるのは僕たちだ



## チャーリーに 会いに来て!

小倉南区守恒にある

花屋さん「街の灯」。写真の通り、ご主人はいつでも、大ファンであるとい



うチャップリンよろしく黒い帽子に白塗りの顔で店頭

## 【CD】 ■ 真実を求めて

TOTO・釘宮過労死訴訟支援のために

過労死裁判を闘う遺族を励まし、支援の輪を広げるため、支援する会の要請を受けて、地元で創作活動を続けている八記久美子さん(作詞)と山田敏夫さん(作曲)がCDを作成しました。



information  
information

新

鮮

情

報

## 【書籍】 ■ 到津の森の詩 市民の森～到津遊園が育 んだ児童文化と環境教育

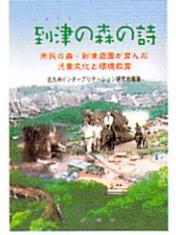
北九州インタープリテーション研究会編〈向陽舎〉

西鉄「到津遊園」の閉園発表から、4年後、市が経営を引き継ぐ形でオープンした「到津の森公園」。

同研究会は、動物園存続署名のとりくみを皮切りに、「市民の声によってつくられる動物園の形」を探し求め、到津の森にかかわった先人たちの気骨あふれる児童文化、環境教育の取り組みを掘り起こし、まとめた。

ちなみに「インタープリテーション」とは「自然や歴史などのすばらしさを、知識だけでなく感性で伝えること」という意味だそう。

●みな様からの暮らしの智恵やおもしろ情報、お勧めの書籍など、どしどしお寄せ下さい。



『子どもの成長見守り 生きる手帳』に書いた「昼も夜も命を削り働いていた「血を吐くまで働け」そう命じたのは誰? ……(中略)…… 話すことも 会うこともできなくなった 人間らしく働く権利のために 真実を明らかに 明らかにして」支援カンパとして500円で販売。

## 【書籍】 ■ 沈黙の海

水俣弁護団長のたたかい

千場 茂勝 著〈中央公論新社〉

まさに28年の水俣病裁判のたたかいを世の人々に、また後世に残す1冊。水俣病の教訓を国民に認識してもらい、国民の監視によって、今後、二度と公害・環境破壊を起こさせない。国民の力によってこそ未来は拓けるという強い訴えが胸に迫る。



## 感じ方・表わし方



作詞家 美憂 ひかり

長崎県在住。趣味で作詞をしており、主な活動の場はインターネット。ホームページで合作した曲を発表している。  
<http://www.am.wakwak.com/~mew61/>

英会話のレッスンをして下さっている英国の先生が、この7月に帰国されるというので送別会を開く事になりました。それで何か記念品を贈ろうという話し。仲間内で意見が分かれました。それでも「有田焼」ということで決まりましたが、「重くてかさばるものは好まれないだろうし本人に何が良いか尋ねたらどうか」「いや、もし尋ねたら遠慮するに違いない」「そんなことはない。日本人とは違うのだから喜んでリクエストするだろう」等いろいろ。

日本人同士でも考え方は色々あるのに英国人の先生との感じ方の違いは予想もつかないことがあります。

わたし達が選んだ送別会の場所は車で20分位のリゾートホテル。送迎バス付きというのが魅力だが料理の評判は芳しくありません。けれど料理より快適に楽しく最後の会を、というのが大方の意見でした。なのに幹事さんが「あそこは食事はあまり美味しくないのですよ」と余計なひとこと。そばで聞いていて、ああ、なんてことをと思ったが遅かりし。当然先

生は「なぜ、不味いお店を選ぶのですか?」と不思議そうです。日本人同士なら「料理はいいけど、こういう利点があるからここがいい」と細かいニュアンスまで伝える事はできるでしょう。恐らくこちらではまず最初に語った言葉が印象が強くて、あとで補足しても「なぜ?」と思わせてしまうのだと思います。

何も正直に言わなくても観光名所の側にあるステキなホテルなのだ、という長所だけ述べて先生の為に良い場所を選びました。と説明するのも悪くはないとは思いますが。

このように言葉の受け取り方や表現方法は人それぞれ、または国民性まで絡んできますね。難しいです。

でも言葉の要らない世界があります。音楽です!メロディです!どんな国の人が聴いても悲しい曲は悲しく、楽しい曲は楽しく心に染み入る事ができるはずですよ。そのまの姿で心と会話できるのです。素晴らしいですよ!

みなさんはメロ先という言葉をご存知ですか?歌を作る方法は先に詞ができていてそれに曲を付けるやり方とメロディがすでにできていてそれに詞を付けるやり方とあります。

最近、メロ先で詞を書かせて頂く機会が多くなりました。それで音楽の奥の深さを知りました。一つの曲の中にも詞と同じようにドラマがあるのです。静かに始まってだんだん調子が高まりサビと言われる最高潮に達し静かに終わっていく。それを聴きとってひとつの短いドラマを書きあげていくのです。

人生の縮図のような歌作りに関わる事ができて楽しいです。これがわたしの最大の自己表現です。